

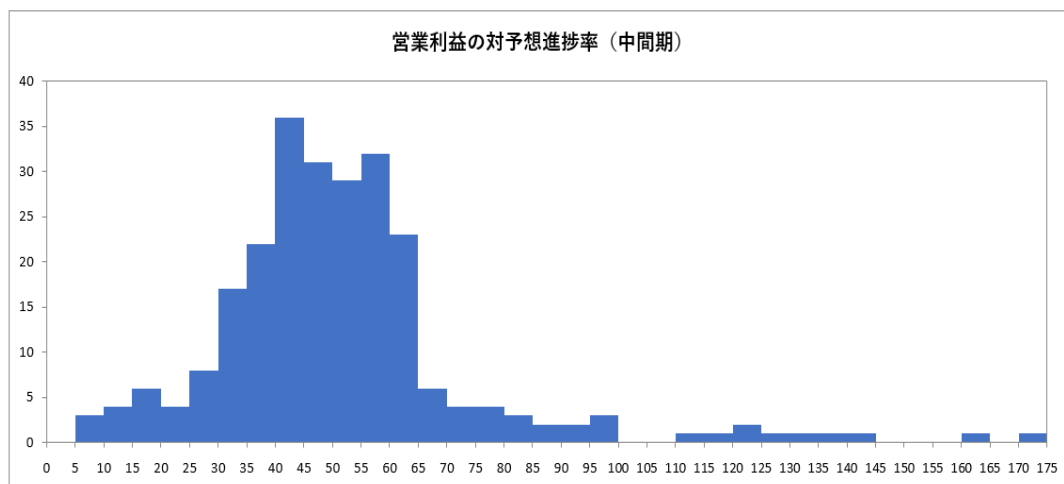
(令和3年 1月25日)

< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識) >
(決算短信を読む・その2ー予想利益に対する評価)

今週から3月期決算会社の第3四半期決算の発表が本格化、当初見通しに対する進捗と回復水準に焦点を合わせたいところです。日経平均採用銘柄を対象にした3月決算会社の修正前の予想に対する増額修正会社数・減額修正会社数、直近一か月間の全上場会社を対象にした同様な集計をみると、大幅に増額修正の方が多い状況となっています。ここにきて新型コロナウイルス感染拡大第3波の影響を受けていますが、この先はどうか。3月期決算会社にとって、今期はあと2カ月を残す時期。第3四半期あるいは通期の決算発表前に修正してくることが多いので、要トレースです。

「会社発表の利益予想」は控えめの会社がある反面、会社目標ではないかと思われる数値を出している会社もあります。こうした時には、進捗率や業績予想の背景を吟味しなければなりません。長年みていると「これは慎重な目標かも…」と思うケースやその逆も多々ありますが、この場合は、業績の進捗状況を起点に、前回コメントした決算短信の「四半期決算に関する定性的情報」などあらゆるデータを基に分析・予想、自分なりの判断を行うことが求められます。なお、会社によっては売上等に季節習性をもっていることもあり、単純に進捗率で判断できないことにも留意です。

(21年3月期決算会社の業績予想に対する中間期時点での進捗率)



上記グラフは、3月期決算会社の21年3月期予想営業利益に対する9月中間期決算における進捗率。GC Hello Trend Masterのデータを基に作成。対象は日経平均500採用銘柄3月期決算会社。赤字決算などを除く。縦軸は社数、横軸は進捗率。

通期の50%を超過した中間期時点、予想利益に対する進捗率が50%を中心集まりますが、意外と上・下に大きく広がっていることがわかります。